

第5・6学年 国語科学習指導案

平成30年1月23日（火）

指導者 西山 夏紀

支援員 濱田 理恵

〈第5学年〉

1. 単元名 事例と意見の関係をおさえて、自分の考えをまとめよう
教材名 「想像力のスイッチを入れよう」（光村図書5年）

2. 単元目標

（「◎」主たる目標 「○」主目標に準じる内容）

◎事実と感想、意見との関係を押さえて、自分の考えを明確にして読むことができる。

○筆者の考えに対する自分の考えを伝え合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

◆読（1）ウ、オ

3. 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読むこと	言語についての 知識・理解・技能
・題材に興味をもち、自分の知識や経験などと関係づけながら文章を読んでいる。	・文章構成を把握し、事例と筆者の考えを整理しながら読んでいる。 ・筆者に対する自分の考えをまとめている。	・目的に応じて文や文章にはいろいろな構成があることを理解している。

4. 学習の基盤

(1)

－〔個人情報保護のため、省略〕－

(2) 単元について

本単元は、「想像力のスイッチを入れよう」を読み、事例と意見の関係を押さえて、筆者の考えを読み取る。そして、本教材から筆者の考えをとらえ、そこから自分の考えをもち、まとめていく。

現代の児童が生活している社会は情報化社会であり、メディアが流す情報をどのように扱っていくか身につけておく必要がある。情報の受信者としてだけでなく、情報の発信者となったときに生かすことができることも大切だと考える。そのため、本教材で読み取ったことをもとにし、今後どのようにメディアと関わっていくかについても自分の考えをもたせていきたい。

本教材の「想像力のスイッチを入れよう」は、3つの事例を挙げて想像力を働かせて考えることの大切さを説明している。3つ目の事例では、『想像力のスイッチ』の入れ方を『事実かな、印象かな。』、『他の見方もないかな。』、『何がかくれているかな。』、『まだ分からないよね。』の4つを提示し、それぞれの考えを示している。

本単元では、筆者の挙げた複数の事例をもとに、自分の身近な経験と結びつけて読むこと、自分の考えをまとめることにつなげていきたい。題名の『想像力のスイッチ』という言葉から、児童は『想像力のスイッチ』とはどのようなものだろうか興味をもつであろう。そこから『想像力のスイッチ』を入れるとは、どういうことか課題を持ち、筆者の考えを読み取っていく。具体的に例文を通して『想像力のスイッチ』を入れてみることで、情報の受信者が大切にすべきことを体感してみる。そして『想像力のスイッチ』を入れるとはどういうことか、筆者の考えを明確にしていく。また、そこから『想像力のスイッチ』を入れるよさについて考えていき、自分の考えをもつことにつなげていきたい。

〈第6学年〉

1. 単元名 筆者の考えをとらえ、自分の考えと比べて書こう
教材名 「自然に学ぶ暮らし」（光村図書6年）

2. 単元目標

（「◎」主たる目標 「○」主目標に準じる内容）

◎事実と感想・意見などとの関係を押さえながら文章の内容を的確に押さえ、筆者の考えと比べながら自分の考えを明確にすることができる。

○文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

◆読（1）ウ、オ

3. 単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読むこと	言語についての 知識・理解・技能
・自然の仕組みとそれを暮らしに生かす筆者の考え方に興味をもつて、文章を読むうとしている。	・どのような事例や根拠を用いて、どのような考えを述べているのかをとらえている。 ・筆者の考えについて、経験や知識と照らし合わせて、自分の考えをまとめている。	・目的に応じて文や文章にはいろいろな構成があることを理解している。

4. 学習の基盤

(1)

(2) 単元について

本単元は、「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」、「『鳥獣戯画』を読む」での学習を受け、事実と感想、意見などの関係をおさえ、自分の考えを明確にしなが読み進めていく。

本教材「自然に学ぶ暮らし」は、問題提起・事例・筆者の考えが順に述べられている構成になっている。自然の仕組みを自分たちの暮らしに生かすことの必要性を「シロアリの巣に学んだ空気調節」、「生き物のあわの使い方に学んだおふろの開発」、「自然の仕組みに学んだエネルギー開発の試み」の3つの事例とともに述べている。環境や資源について考えなければならない現代。児童たちは、小学校の最高学年の児童として未来の社会について考える機会がこれまでもあった。本教材を通して、未来の社会の在り方にも目を向けつつ、自分なりの考えをもたせていきたい。

本単元では、自然の豊かさやすばらしさを感じ取らせ、自分たちの暮らしと密接に関わっていることに着目させたい。また、筆者の主張する『新しい暮らし方』とは、どのような暮らし方か課題をもち、事例を通して伝えられる筆者の考えを明確にしていく。筆者の主張する『新しい暮らし方』とは、どのような仕組みを応用しているのか、それによってもたらされる効果を読み取ることで、より筆者の主張が明確にできると考える。そして、それをもとに『新しい暮らし方』について自分の考えを述べていく。書かれている内容、文章構成から筆者の意図を捉え、毎時間筆者の考えに対して自分の考えをもち、書き残していきたい。また、自然や未来の暮らしについて書かれた本の並行読書も行い、自分の経験、知識を織り交ぜながら、自分なりに『新しい暮らし方』について考えられるようにもしていきたい。

(3) 指導について

【本時について】

本時は、筆者の主張である『想像力のスイッチ』を入れるという考えを具体的に確かめていく時間である。

5年生は、例文を読み、Aさんが監督になるのか、ならないのか予想を立ててみる。その上で『想像力のスイッチ①事実かな、印象かな』のスイッチを入れて、再度例文をみていき、Aさんが監督になるのか、ならないのかを考えていく。事実と印象にわけてみることで、事実がはっきりする。事実のみを見るとAさんが監督になるともならないともはっきり判断することができないことに気づかせたい。

また、『想像力のスイッチ②他の見方はないかな』についても①と同様に考え、他の見方を見つけてみる。このことで想像力のスイッチを入れる意識づけをする。そして実際に「事実・印象」、「他の見方」に分けて考えることで、筆者の主張する想像力を働かせて考えることの大切さを児童自身も感じることができると考える。

そして、最初の子予想とスイッチを入れた後の考え方を比べ、実際に感じたことから、事実がはっきりしたり他の見方があることに気づいたりするなど『想像力のスイッチ①②』を入れるよさをまとめていきたい。

本時は、は筆者の挙げている事例について読み取り、自分の考えをもつ時間である。

6年生は、筆者の挙げている事例、「シロアリの巣に学んだ空気調節」の仕組みに着目してまとめていく。そして、仕組みが生活に応用されることでどのような効果があるかを読み取っていく。シロアリの巣の仕組みは、「トンネルによって温度調節をする」仕組みと「小さな穴によって湿度調節をする」仕組みが挙げられている。児童には、どのような仕組みになっているのかを問いかける。仕組みと効果を読み取るために、事前に色分けをしておき、それを参考に考えていく。シロアリの巣のトンネルは、どうやって温度調節をしているのか話し合い、温度の高い空気と低い空気が入れ替わる仕組みから、電気を節約することができるというよさがあることに気づかせたい。「小さな穴によって湿度調節をする」仕組みについても同様に話し合っていく。よさをまとめ、筆者の考える新しい暮らし方を読み取っていきたい。

そして、筆者の考えに対して、自分自身は『新しい暮らし方』についてどのように考えるのか、自分たちの生活を振り返り経験を踏まえて、自分の言葉でまとめられるようにしていきたい。

〈校内研究との関わり〉

研究主題

主体的に学び、考えを伝え合う子どもの育成

めざす子ども像

- ①基礎基本を身につけ、主体的に学習する子ども
- ②お互いのよさを認め合える子ども
- ③人の話をしっかり聞き、自分の考えをはっきり言える子ども

【主体的に学ぶことについて】

①ガイド学習

ガイドは、学習リーダーとして学習内容の指示を時間とともに伝える。全体の話し合いの場では、みんなの意見をまとめていきたい。また、ガイド以外の児童はフォロワーとしてガイドを支えて、全員で助け合って学習を進めていこうとする姿勢を目指していきたい。児童が主体的に進めるために、学習の見通し、学習の進め方が全員に理解されていることがまず必要なことであると思われる。そのため、授業の流れがわかるようなワークシートを作成し、児童の力で進めていけるようにしていきたい。

②見通し・ふりかえり

本時の目標を提示し、学習の目標とゴールを全体で確認をし、見通しがもてるようにする。

ふりかえりでは、友だちの良さ、自分が本時で学んだことをノートに書く時間を設定する。ガイドがみんなのがんばりを全体に広める時間も確保し、頑張りに価値づけをしていく。

【考えを伝え合うことについて】

①自己有用感の高まり

児童同士の関わり合いや全体の場において、児童の意見を確認し、児童の自主的態度や向上した点を教師が具体的な言葉で伝えていく。そして、児童が互いのよさを認め合えるような場を設定していきたい。

本学級の児童の中には、自分の思いをあらたまって書くことに抵抗感を示す児童もいる。そのため、スモールステップで書くことを進めていき、書くことへの抵抗感を減らしていく。5・6年生は毎時間、筆者の考えから自分がどのように思うのかをワークシートに書かためていくようにし、最後に自分の考えをまとめる際には、既習事項を参考にして書くことができるようにしたい。

5. 単元計画（5学年：全8時間 本時3時間目／6学年：全8時間 本時3時間目）

第5学年				第6学年			
時	学習活動	指導上の留意点	評価規準	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	○単元の目標を確認し学習計画を立てる。 ・題名について話し合う。 ・学習課題を設定する。 「想像力のスイッチ」を入れるとはどういうことだろう。それに対して自分の考えをまとめよう。 ・範読後、感想をまとめる。	○「想像力のスイッチ」という言葉からどのようなことが想像できるか促し課題につなげる。	題材に興味をもち、題名の意図を考えようとしている。 (ノート)	1	○単元の目標を確認し学習計画を立てる。 ・題名について話し合う。 ・範読後、感想をまとめる。 ・学習課題を設定する。 筆者のいう「新しい暮らし方」とは、どんなことだろう。「新しい暮らし方」について自分の考えをまとめよう。	○家庭科の学習を想起させ、自然の力が生かされていることを考えられるようにする。「学ぶ」とは、どういうことか考えられるようにする。	自然の仕組みとそれを暮らしに生かす筆者の考え方に興味をもって、文章を読もうとしている。(ノート)
2	○教材文を読み、「初め」「中」「終わり」にわけ、文章構成を確かめる。 ○「はじめ」の筆者の主張を確かめる。 ・「想像力のスイッチ」を入れる時に大切なことを読み取る。 ・『想像力のスイッチ』を書きだす。	○筆者の主張、主張を説明する事例、最後の筆者の主張に着目して「初め」「中」「終わり」にわけられるようにする。 ○筆者の考えである「想像力のスイッチ」を入れることが大切であることに気づかせ、『想像力のスイッチ』に着目させる。	文章構成を考えながら、初め、中、終わりにわけている。 (ノート、発言)	2	○教材文を読み、「初め」「中」「終わり」にわけ、文章構成を確かめる。 ○「はじめ」の筆者の主張を確かめる。 ・筆者の主張に対して自分の考えを書く。	○「問い」を見つけ、段落初めの言葉に着目して「はじめ」「中」「終わり」にわけられるようにする。 ○筆者の主張に線を引き、視覚化する。 ○筆者の主張に対して、納得できるかできないか、考える視点を与える。	文章構成を考えながら、初め、中、終わりにわけている (ノート、発言)
3	○『想像力のスイッチ①』『想像力のスイッチ②』について具体的に読み取り、スイッチを入れるよさを考えて書く。	○4つの『想像力のスイッチ』それぞれについて、具体的に考え方を確認し、筆者の考える大切なことをまとめる。 ○筆者の考えから、『想像力のスイッチ』を入れるよさを考え、自分の考えがもてるようにする。	事例から『想像力のスイッチ』を入れるよさをまとめている。(ノート)	3	○事例「シロアリの空気調節」について読み取る。 ・事例に対して自分の考えを書く。	○事例に色分けして線を引き、仕組み・応用がわかるよう視覚化していく。 ○事例に対して自分の考えが持てるよう視点を用意する。 ・納得できるか。 ・事例によって自分たちの生活がどうなるか。等	事例からシロアリの巣の仕組みについてよさをまとめ、自分の考えをもっている。 (ノート、発言)
4	○『想像力のスイッチ③』 ○『想像力のスイッチ④』についてスイッチを入れるよさを考える。			4	○事例「あわ」「小さな発電機」について読み取る。		事例からあわの仕組み、発電の仕組みについてよさをまとめ、自分の考えをもっている。 (ノート、発言)
5	○「終わり」の筆者の考えについてまとめる。 ・「想像力のスイッチ」を入れるとはどういうことか考える。 ・筆者の主張に対して自分の考えを書く。	○筆者の主張がわかるように線引きをする。 ○筆者の主張に対して、共感したこと、疑問に思ったことなどを自分の考えが持てるよう視点を用意する。 ○文章構成の確認をする。	筆者の主張を読み取っている。 (ノート)	5	○「終わり」筆者の考える「新しい暮らし方」についてまとめる。 ・筆者の主張に対して自分の考えを書く。	○筆者の主張をまとめることで、自分の考えと比べやすくする。 ○筆者の主張に線を引く。	筆者の主張に対して自分の考えをもっている。 (ノート)
6	○自分の考えをまとめる。	○筆者の考えを確認し、メディアとの関わり方を想起させる。	筆者の考えに対して、想像力のスイッチのよさを考えまとめている。 (ノート)	6	○筆者の主張する「新しい暮らし方」と、自分の考えを比べる。	○筆者の考えを全体で確認してから自分の考えをまとめるようにする。 ○「筆者の考えに対する自分の考え」「考えの根拠」「自分の主張」など大まかな構成を伝える。	筆者の考えに対する自分の考えを、具体的な体験などと結び付けて考えている。(ノート)
7	今の自分にとっていちばん大切だと思うスイッチはどれでしょう。 ・自分なりに大切だと思うスイッチについて考える。	○4つの『想像力のスイッチ』のうち、自分が一番大切だと思うものを選び、それについて自分の経験をふまえて、考えをまとめるようにする。		7			
8	○自分の考えをまとめ、発表する。			8	○『新しい暮らし方』について自分の考えを発表する。	○感想を伝え合う時に、内容面について具体的な感想が言えるように、聞く視点を伝える。	

6. 本時の展開 (3/8)

(1) ねらい

『想像力のスイッチ』に着目して、筆者の考えを読み取り、スイッチを入れるよさを考える。(読むこと)

(2) 展開

時	教師の支援(・)と評価(◎)	学習活動	教師
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示やノートで、既習事項のふりかえりができるようにしておく。 ・ 報道の例文を全体で確認し、実際に想像することを通して、「想像力のスイッチ」を入れる意識づけをする。 	<p>1. 本時の課題を確認</p> <p>例文：サッカーの人気チームで監督が辞任することになり、Aさんが新しい監督になるのではないかと注目が集まっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 例文から監督になるかならないか予想をたてる。 <p>Aさんが監督になるのか、ならないのか、『想像力のスイッチ』を入れて考えよう。そして、スイッチを入れるよさを考えよう。</p>	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例文だけをまず提示し、『想像力のスイッチ』を入れずに、監督になるかならないか想像させる。 ・ 『想像力のスイッチ①』を入れてみることを伝え、教材文に書かれていることを根拠に、事実と印象に色分けして線を引かせる。 事実：赤 印象：青 ・ ワークシートを用意する。 	<p>2. 想像力のスイッチ①を入れて考える。</p> <p>例文：Aさんは、報道陣をさけるためか、うら口からにげるようにでていきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 監督になるかならないか予想する。 ② 全体で想像力のスイッチ①『事実かな、印象かな』のスイッチを入れて、例文を事実と印象に色分けをする。 <p>〈事実〉・ Aさんは ・うら口から ・出て行きました</p> <p>〈印象〉・ 報道陣をさけるためか ・にげるように</p>	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個別思考の時間を設定し、事実と印象からAさんが監督になるかならないかを考えさせる。 ・ 個別思考後に全体で、事実と印象を根拠に監督になるかならないかを話し合い、結論をまとめる。 	<p>3. 全体で話し合っ、Aさんが監督になるか、ならないか、理由をつけて結論をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事実、Aさんがうら口から出たということだけだから、これだけでは、監督になるとは言えない。 <p>〈結論〉 事実からはAさんが、監督になるか、ならないかは、わからない。</p>	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 例文をまず提示し、監督になるかならないか予想をさせる。 ・ 見方が見つからない児童には、例文と一緒に確認し、「仕事をキャンセルしたのは何のためか」と問いかけ、見方を考えられるようにする。 	<p>4. 想像力のスイッチ②を入れて考える。</p> <p>例文：Aさんは、来月から予定していた外国での仕事を、最近、キャンセルした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 監督になるかならないか予想する。 ② 全体で想像力のスイッチ②『他の見方もないかな』のスイッチを入れて、見方を確認する。 <p>〈1つの見方〉・ 監督就任のため</p> <p>〈他の見方〉・ 相手側の都合のため</p>	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「想像力のスイッチ①②」を入れることで、どんなよいことがあるか問いかける。 	<p>5. 全体で話し合っ、結論を出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 監督就任のためとは、いいきれないから、監督になるとは言えない。 <p>〈結論〉 Aさんが、監督になるかならないかは、わからない。</p>	

6. 本時の展開 (3/8)

(1) ねらい

筆者の挙げている事例の仕組みに着目して、筆者の考えを読み取り、自分の考えをもつ。(読むこと)

(2) 展開

時	教師の支援(・)と評価(◎)	学習活動	教師
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 掲示やノートで、既習事項のふりかえりができるようにしておく。 ・ 前時に確認したシロアリの巣の空気調節について写真を見せ、どのような仕組みになっているのか意識づけをする。 	<p>1. 本時の課題を確認</p> <p>シロアリの巣の空気調節</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時をふり返り、シロアリの巣の仕組みについて課題意識をもつ。 <p>シロアリの巣についてまとめ、新しい暮らしに応用するとどんなよいことがあるか考えよう。そして、それについての自分の考えをもとう。</p>	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前に「利用する仕組み」、「生活に応用できること」「応用する良さ(効果)」を色分けして線を引いておく。 「仕組み」：青 「応用」：緑 「効果」：橙 ・ 仕組みを書くためにワークシートを用意する。 ・ 仕組み、よさについては、色分けした短冊に書いて掲示できるようにする。 	<p>2. シロアリの巣の仕組みはどんな仕組みになっているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① トンネルによって温度を調節する仕組みについて ② 小さな穴によって湿度を調節する仕組みについて 	
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視点に沿って話し合えるようガイドに視点を伝えておく。 〈視点〉 どんな仕組みか どうやって調節しているか ・ 仕組みを利用することで、どのようなよいことがあるのか問いかけ、よさを話し合う。 	<p>3. 全体でシロアリの巣のトンネルによって温度調節をすることについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 仕組みについてまとめる。 ・ トンネルの中を空気がめぐり、巣の中の温度を調節する。 ・ 空気をめぐらせて、温度の高い空気と低い空気が入れ替わるようにする。 <p>② よさをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電気が節約できる。 ・ 空気調節に必要な電気を減らすことができる。 	
10		<p>4. シロアリの巣の小さな穴によって湿度を調節することについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 仕組みを考える。 ・ 小さな無数の穴が呼吸するように湿度を調節する <p>② よさをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エアコンを使わずに湿度を調節できる。 	

5	◎事例から『想像力のスイッチ』を入れるよさをまとめている。 (ワークシート・発言)	6.『想像力のスイッチ①②』の大切なところを確認し、スイッチを入れるよさを考える。 ・スイッチを入れると冷静に見直すことができ、事実がはっきりするから、情報を正しく判断ができる。 ・他の見方もあることに気づける。		5.シロアリの巣の空気調節の事例に対して、自分の考えを書く。 ・今はエアコンを使って温度を調節しているが、シロアリの仕組みを使うと電気が節約できるから利用したい。 ・トンネルや穴を使って空気調節をすると、使う電気を減らすことができ良い。	・筆者の考えと比べて自分の考えが書けるように、共感できる点、できない点など考える視点を伝える。 ◎事例からシロアリの巣の仕組みのよさについてまとめ、自分の考えをもっている。(ワークシート、発言)	5
5	・スイッチ①②を入れるよさについて考えることができたか、ふりかえりをする。	7. ふりかえり ・ノートにふりかえりを書く。 次回の活動の確認をする。		6. ふりかえり ・ノートにふりかえりを書く。 次回の活動の確認をする。	・事例をまとめ、自分の考えをもつことができたか、ふりかえりをする。	5

(3) 本時の評価の観点

A十分に満足と判断できる	Bおおむね満足と判断できる	C努力を要する児童への手立て
〈第5学年〉 事例から『想像力のスイッチ』を入れるよさをまとめ、自分の身近な経験と結び付けて考えている。 〈第6学年〉 事例からシロアリの巣の仕組みのよさについてまとめ、自分の生活に活かしていこうという考えをもっている。	〈第5学年〉 事例から『想像力のスイッチ』を入れるよさをまとめている。 〈第6学年〉 事例からシロアリの巣の仕組みのよさについてまとめ、自分の考えをもっている。	〈第5学年〉 想像力のスイッチを入れることで、どんなことができるかを確認し、どこによさがあると思うかを問いかける。 〈第6学年〉 事例と一緒に確認し、事例に納得できたか、実現したらどうなると思うかを問いかける。